

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	国立印刷局小田原工場製版棟新築工事	階数	地上4F
建設地	小田原市酒匂6丁目578-1ほか1筆	構造	RC造
用途地域	市街化区域,法22条区域,工業地域	平均居住人員	15人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,940時間/年
建物用途	事務所,工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年3月 予定	評価の実施日	2016年4月19日
敷地面積	3,818㎡	作成者	(株)楠山設計
建築面積	2,178㎡	確認日	2016年4月19日
延床面積	4,041㎡	確認者	(株)楠山設計



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.6 ★★☆☆☆☆

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.4

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合 近隣への配慮を行ない、既存の植栽はできるだけ残す計画。 内部では室内の自然採光に配慮し大きめの窓を設置。階高に余裕を持たせるなど、将来の設備更新や、模様替えに対応できるように配慮した。		その他 0
Q1 室内環境 建材は規制対象外や、VOCについても放散量の少ない建材を使用。	Q2 サービス性能 内装仕上材は耐用年数の長いものを使用。	Q3 室外環境(敷地内) 仮想敷地外だが既存の植栽が残るので、工場内の作業環境も考慮し屋外環境を配慮した。仮想敷地内では効率よく機器等を配置し、仮想敷地外への美観や緑地の減少などの影響をできるだけ少なくなるよう配慮した。
LR1 エネルギー LED照明設備の設置。	LR2 資源・マテリアル 内壁材について乾式を多用し、RC壁は極力採用しないことで、型枠材等の資源への配慮。	LR3 敷地外環境 LCCO ₂ 排出量の抑制により地球温暖化への配慮を行った。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される